

短期大学部 [英語]

A I (その1)

1-C	2-C	3-A	4-D	5-C
6-C	7-A	8-A	9-C	10-B
11-D	12-B	13-D	14-A	15-C
16-D	17-B	18-B	19-D	20-A

A II (その1)

(A)				
21-A	22-B	23-B	24-D	25-C
26-A				
(B)				
27-A	28-D	29-B	30-B	31-A
32-C	33-B	34-C	35-D	

A III (その2) リスニング・テスト

TYPE A

49-A	50-C	51-B	52-A	53-D
54-D	55-D	56-B	57-B	58-C

TYPE B

59-C	60-C	61-D	62-A	63-B
------	------	------	------	------

TYPE C

64-A	65-B	66-B	67-D	68-B
------	------	------	------	------

英語 短期大学部

<全体分析>

試験時間 80分

<p>解答形式 すべてマーク式</p> <p>分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易 (易化・変化なし・難化) A IIの長文問題が、20問から16問に減少した。</p> <p>出題の特徴 特になし。</p> <p>その他トピックス 聞き取り問題の形式が、Bは「放送された英語に最も近い内容を選ぶ問題」から「長文に対する内容一致問題」になり、Cは「長文問題」から「会話問題」の内容一致になった。</p>

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
A I	読解総合	中文空所補充	「大英博物館」などについての4つの中文の空所に適切な語 (句) を入れる問題。単語・熟語の知識や、文脈を読み取る能力を問われる。各5問で20問出題される。	標準
A II	読解総合 (長文内容一致)	長文読解問題 (A)「外国からの移民」 (B)「身振り言語」	(A)は「外国からの移民」についてのエッセー。(B)は「身振り言語の文化による差異」について述べた文章。(A)は6問、(B)は9問となり、前年度が(A)(B)とも10問であったが、減少した。	標準
A III	聞き取り	会話・長文	Aは「放送された英語への正しい返事」を選ぶ(10問)、Bは「長文に対する内容一致」(6問)、Cは「会話に対する内容一致」(6問)。Aは1回のみ、B・Cは2回放送される。B・Cでは紛らわしい選択肢に注意。B・C放送前に選択肢に目を通しておくよう指示される。	標準 標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」
難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

中文空所補充が4題、長文読解が2題、聞き取りが1題の構成である。中文空所補充に対しては、単語の正確な知識や、文法知識をつけておくことが大切。また、空所前後の文脈から最も適切なものを読み取る訓練も必要だ。長文読解はそれほど長い英文ではないが、2つの英文にたいして問いが16問と多いので、細かい点まで気を付けて読む練習が必要。南山大他学部部の過去問を解くことも効果的。リスニングに対しては、NRRラジオ・テレビ放送などを利用して、日頃から英語の聞き取りに慣れておくことが対策としては重要である。